

2月定例会号

わかやま 市議会 だより

No.109 令和5年(2023年)5月1日発行

目次

- ・特集 地域に愛されるチームに
和歌山大学硬式野球部 P2
- ・2月定例会の概要 P4
- ・令和5年度当初予算 P5
- ・代表質問 P6
- ・一般質問 P8
- ・委員会審査の概要 P12
- ・採決状況 P14
- ・永年在職議員表彰など P16

目指すは、日本一。



WAKAYAMA
UNIV
BASEBALL
CLUB

【BASEBALL】和歌山大学硬式野球部

特集
vol.22

地域に愛されるチームに



和歌山大学 硬式野球部
監督 大原 弘 さん

和歌山市出身。高校野球の指導を経て、
2008年に監督就任。



和歌山大学硬式野球部が、地方の国立大学に類を見ない活躍をしていることをご存じですか。「目指すは、日本一」を掲げる同野球部の強さの秘けつとは――。監督の大原弘さんに野球部への思いを伺いました。

自分で考え行動する だから「ノーサイン」

和歌山大学硬式野球部が、その名を全国にとどろかせたのは2017年6月。神宮球場などで開催され、大学野球の甲子園といわれる「全日本大学野球選手権大会」でベスト8入りしました。2021年には同大会にて学生野球の名門、慶應義塾大学と対戦。惜しくも敗れましたが、この時、日本に輝いた慶應義塾大学が「一番苦しんだのが和歌山大学戦で、その名勝負は学生野球ファンに今でも語り継がれています。

同野球部は、特待生はおらず、専用グラウンドもありません。練習は平日の授業後に週2日が基本で、朝練は授業が始まる午前9時までしかできないなど、私立大学と比べると圧倒的に不利な環境にあります。しかし、部員たちは、環境を言い訳にせず、前向きに練習に取り組んでいます。

ます。

「ノーサイン野球」が同野球部の特徴です。これは、自分で考え行動できる人間に育ってほしいという大原監督の思いの表れで、監督は「大学生＝社会人」と考え、部員の自主性を重んじています。選手たちは限られた時間の中で、必要な練習を考え実行し、何かミスがあれば、全員で話し合い、二度と同じ間違いをしないように共通認識を持つことを徹底しています。流れを確実にものにし、チームで勝つ。これが強さの秘けつと言えそうです。

経験することはチャンス 頼まれごととは「試されごと」

大原監督が就任した当初は、ボールも満足にない状態で、市内の高校から援助を受けながら、練習環境を整えていったそうです。この経験から「和歌山の高校野球に恩返しを」と、数年前から夏の高校野球の運営の一端を担うようになりました。

また、2年前に六十谷水管橋が崩落し、市北部地域で断水が続いた際には、部員がボランティアで給水業務に従事し、重い水の入ったポリタンクなどを運搬しました。「水を運ぶと大変有り難がってもらいました」

と感無量で報告する学生たちの様子から、彼らの中に多くの気付きがあったことを感じたそうです。

「頼まれごとは、試されごと」。何か頼まれたら全部OKなのです」と大原監督。「相手の予想を上回る働きをすることで、次のチャンスにつながる」。何事にも真摯に取り組み、自らの成長の機会とする――。この姿勢の積み重ねこそが、同野球部の真の強さなのではと感じました。

地域への貢献通じ 人間性を高める

大原監督が、野球の指導を通じて大切にしていることが、いかに個々の人間性を高めるかということでした。

キャプテンの生田寛大さんは「目標は日本一、目的は人間形成を念頭に取り組んでいます。監督には、入学した時から、『社会人1年生』と言われていて、周りの方々や地域に貢献していけるようにと、普段から教わっています」と話し、監督の理念が息づいていることが伝わってきます。

「地域に愛されるチームに」との思いから、小中学生との練習や地元祭りの参加など地域に根ざした活動のほか、女子野球との交流など野球界の発展につながる活動に積極

的に取り組んでいる同野球部。様々な経験を積むことが、学生にとつては、人間性を高めるチャンスであると考え、また、地域の活性化のためには、この若い力を使わない手はないと、大原監督は熱く語ります。

若い世代の潜在能力をどう生かすかで、今後の和歌山市の方向性は大きく変わってくると考えます。私たち議員は、若者との対話を通じ、新しい価値観を取り入れたまちづくりに、全力で取り組んでまいります。

編集後記



国立大学では異例とも言える全国大会に何度も出場している和歌山大学野球部、その「強さ」の秘けつが分かればとの思いで取材に邪魔しましたが、大原監督の「人間力」を重視した育成方針を聞かせていただき、納得しました。

今季も全国大会出場、悲願の日本一に向けて頑張ってください。和歌山市議会も応援しております！

特集担当：堀 良子、林 佑美、山本 大地

(取材日：令和5年1月31日)

2月定例会の概要

開会

2月20日

- ・会期の決定(2月20日～3月16日)
- ・議案説明(報告関係4件、承認関係1件、議案36件(補正予算案20件、条例案6件、繰越明許費に関する補正予算案5件、その他5件))
- ・議案に対する質疑(姫田議員)
- ・議案の委員会付託

2月21日～22日

- ・総務委員会、厚生委員会、経済文教委員会、建設企業委員会で議案について、審査、討論及び採決

2月27日

- ・各常任委員会の委員長報告
- ・反対討論(中村(朝)議員)、採決
- ・議案説明(議案31件(当初予算案18件、条例案11件、その他2件))

代表質問

3月1日

各会派の代表者による代表質問

- ・中谷謙二議員、中尾友紀議員、森下佐知子議員、山本忠相議員、尾崎方哉議員、北野均議員(P6～P7に概要掲載)

一般質問等

3月2日

- ・赤松良寛議員、坂口多美子議員、堀良子議員、中村朝人議員

3月3日

- ・林佑美議員、南畑幸代議員、中庄谷孝次郎議員

3月6日

- ・浜田真輔議員、山野麻衣子議員、井本有一議員

3月7日

- ・寒川篤議員、姫田高宏議員、佐伯誠章議員(P8～P11に概要掲載)
- ・議案に対する質疑(森下議員)
- ・議案等の委員会付託

常任委員会

3月8日～13日

- ・総務委員会、厚生委員会、経済文教委員会、建設企業委員会で議案について審査

3月14日

- ・各常任委員会で議案について、討論及び採決並びに請願の審査(P12～P13に概要掲載)

閉会

3月16日

- ・各常任委員会の委員長報告、組替え動議
- ・反対討論(南畑議員)、採決
- ・追加議案の説明(人事案件2件)、採決
- ・議員発議(意見書案1件)、採決
- ・議員の辞職・永年在職議員表彰

令和4年度予算(2月補正後)

一般会計	1,645億7,621万7千円 (補正額48億8,249万2千円)
特別会計及び公営企業会計	1,379億5,864万3千円 (補正額△16億4,245万5千円)
合計	3,025億3,486万円

補正予算の概要

一般会計では、国補正を活用した小中学校等の環境整備のためのトイレ改修や空調改修に要する経費、農業施設改良事業に要する経費、各事業における事業費の決定や精算等による予算などが計上されました。

特別会計(公営企業会計を含む)では、各会計で事業費の決定や精算等による予算などが計上されました。これらの補正予算案は慎重審査の結果、可決されました。

一般質問と代表質問ってなに？

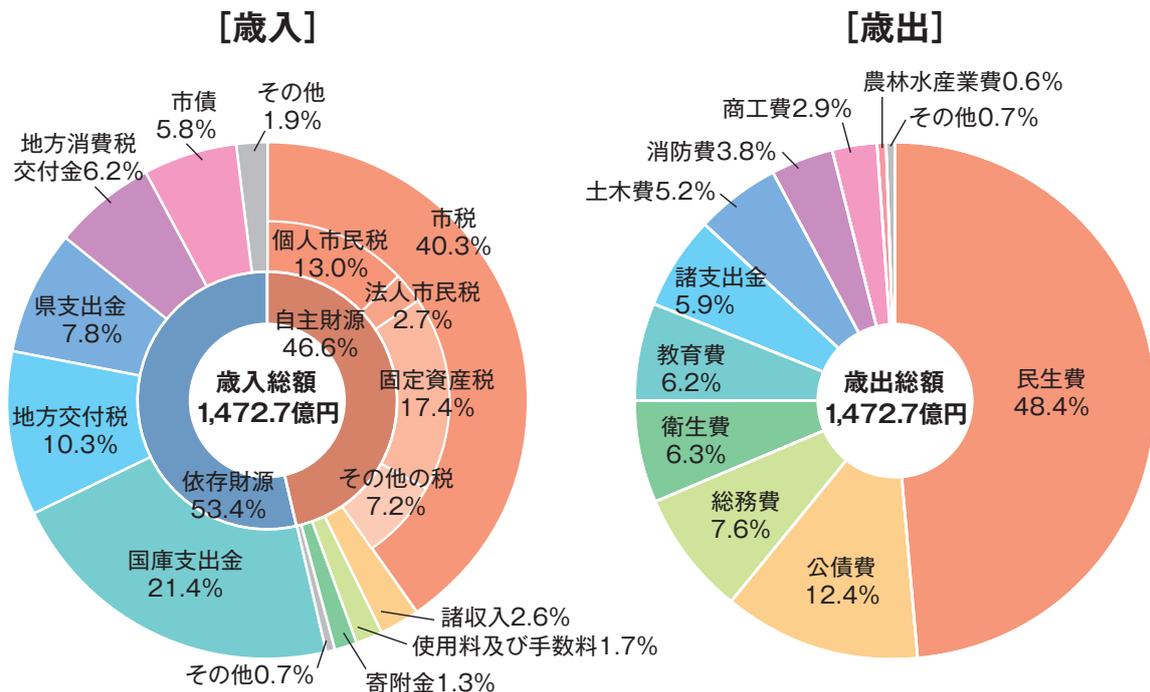
一般質問とは、議員が本会議で、議長の許可を得て、議案に関係なく市政全般(一般事務、事務の執行状況、将来に対する方針など)について、市長など執行機関の考え、方針を個人として問いたですることです。

また、会派を代表して問いたですことを代表質問といい、和歌山市議会の場合、年1回、2月定例会で行われます。



令和5年度当初予算

一般会計



特別会計

996.2億円

公営企業会計

395.1億円

予算合計

2,864億円

オール和歌山市の力で実現する、
コロナ禍からの脱却と新たな出発のための予算



1 ふるさとで学び働けるまち

1 地域×学生

つながりにより生み出される新たな未来

2 成長を後押しする地域産業の活性化

・人と地域をつなぐ道路ネットワークの構築

3 地域の資源を生かした“稼げる観光”の推進

・夜を彩る一にぎわいと憩いの光をともしまちなか など



2 県都として活力にあふれたまち

1 未来をつくる人を呼び込むプロモーション

2 まちを次のステージへと進める成長の共創

・JR和歌山駅周辺を起点とした取組

・南海和歌山市駅を中心にした駅まち空間の形成

3 歴史ある城下町の豊かな自然と文化の継承

・和歌山城の更なる魅力向上 など



3 子供たちがいきいきと育つまち

1 未来へつなぐ子育て支援の充実

・安心して子育てできる経済的支援

・保育環境の更なる充実

2 未来を切り開く力を育む人づくり

・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

・自ら学び、社会を生き抜く力を育む読書環境の充実 など



4 誰もが安心して暮らせる優しいまち

1 新型コロナウイルス感染の拡大防止と物価高騰への対策

2 市民の命と暮らしを守る基盤づくり

3 便利で暮らしやすい持続可能な地域づくり

・行政DXの推進

4 地域とともに目指す誰もが生きやすい

包摂的な社会の実現 など



代表質問

各会派の代表者による質問内容の一部を抜粋して掲載しています。



録画中継がご覧いただけます。

※各会派のスペースは、会派の所属議員数によりその大きさが異なります。

自由民主党市議員



なかたに けんじ
中谷 謙二

学校給食

問 物価の高騰が落ち着き、所得が増えるまでの間だけでも、学校給食の無償化に取り組み負担軽減する必要があると考えるがどうか。無償化が厳しいのであれば、せめて学校給食における米代や牛乳代を市が負担すること、子育て世帯の経済的、心理的負担をわずかも軽減することができ、完全無償化を見越して段階的に取り組んではどうか。

答 当初予算には計上していないが、物価高騰に伴う保護者負担を増やさないよう、和歌山市給食費支援金を交付したいと考えている。今後、県と連携しながら、給食費無償化の早期実現に取り組んでいく。



答 令和5年度から実施予定の小規模校における給食への有機農産物の調達を足

代表質問

掛かりに、他都市の事例も参考にしながら、公共調達の仕組みを研究していく。

問 輸入小麦の値上げ、グリオサートのリスク、地産地消、米の消費拡大につながる観点から、一部取り組んでいるグルテンフリーである米を使用した米粉パン、米粉コッパン、米粉パン、米粉コッパン、米粉パンスタ等を学校給食に本格的に導入してはどうか。

答 米粉を100%使用したパンを試作したが、給食用として提供できるレベルに達せず、現在、50%使用したパンを年3回程度提供している。米粉パンの製造は、高度な技術や手間が必要となるため、事業者と協力し、他都市の事例を参考にしながら研究していく。

公明党議員団



なかお ともき
中尾 友紀

少子化対策・子育て支援

問 少子化対策が喫緊の課

題の中、子供を産み育てたいと希望する子育て若者世代が、安心して子育てできる環境整備が重要である。

答 子育て環境日本一を標ぼうする市長は、どのような子育て支援に取り組もうと考えているのか。

答 令和5年8月から、18歳年度末までのこども医療費の無償化を実施するとともに、保育料無償化の拡充、学校給食の無償化、ヤングケアラー対策等の子育て支援施策の検討を進めていく。

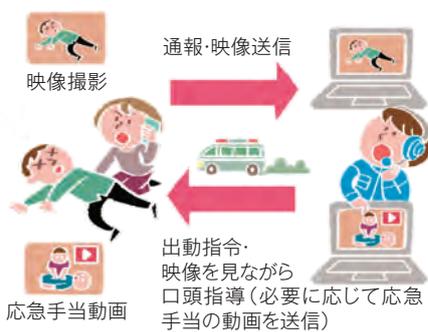
バリアフリー改修

問 誰もが安心安全に暮らせるまちづくりを実現するためにも、優良建築物等整備事業(既存ストック再生型)によるマンションのバリアフリー改修をまちなかエリアに限定することは、おかしいのではないか。

答 既存ストックの現状や居住環境ニーズを踏まえ、対象エリア、効果的な支援内容など、県と協議しながら、幅広い活用に向けた検討を進めていく。

Live119

問 119番通報の後に行う応急手当の口頭指導の一つとして、映像を活用したLive119がある。これは、通報者のスマートフォンを使い、救急現場の映像を消防指令室に送受信できる仕組みである。



答 次期高機能指令システムの更新時期での導入に向け、取り組んでいく。

日本共産党議員団



もりした さちこ
森下 佐知子

新型コロナウイルス対策

問 新型コロナウイルスの第8波では、高齢者の死亡が多数になったほか、高齢者施設では、感染者を施設に留め置き医療につなげることができず、深刻な状況になった。独自に行ったアンケート調査でもその実態が如実に表れている。この実態を把握していたか。救済策をどう取り今後どうしていくのか。また、国がら類に位置付けを引き下げることにについて市としてどう対応するのか。

答 第8波では亡くなる人が第7波を超え、保健所、医療機関、高齢者施設の業務に多大な影響が生じた。高齢者施設ではスタッフの感染や濃厚接触者の増加で介護の継続が困難となったと把握している。抗原検査キットの緊急配布や臨時発熱外来、待機ステーションを実施し感染拡大防止に努めた。現場の声として物資の不足や感染リスクなどに不安感があったと認識している。また、5類への引き下げに際して適切な情報提供を行い支援を継続する。

人事行政

問 コロナ禍における保健所業務等、人事体制は本格的な体制を備えておくべきだと考えるがどうか。

答 危機事象など突発的に多大な業務量の発生に備え日頃から業務の平準化による人員配置、業務に見合った適正な人員確保に努める。

民主クラブ



やまもと ただすけ
山本 忠相

市民の足としての地域交通

問 令和5年度は、地域公共交通計画の改定年度になり、計画の土台となる意識や発想の転換が必要となる。これまでの公共交通機関だけではなく、あらゆる移動手段を含めて「地域交通」と定義し、「市民が用いることのできる全ての移動手段」と考えを改めるべきである。そこで、自転車や次世代モビリティなど新たな移動手段を含めた計画改定が必要だと考えるがどうか。

段を含めた計画改定が必要だと考えるがどうか。

次に、交通不便地域に住む市民の移動手段確保について、全てを地域バスで補おうとする考えは持続可能ではない。また、新しい移動手段を用いて交通不便地域を解消することは、都市としての価値を上げることと資すると考える。交通不便地域に住む市民の移動手段についてどう考えるか。

答 次世代型モビリティなど新たな移動手段の導入も視野に、誰もが移動しやすいまちの実現を目指していく。また、AIオンデマンド交通などの新たなモビリティサービスの導入も視野に、移動手段の確保に向けて取り組んでいく。

和歌山興志クラブ、日本維新の会



おざき まさゆき
尾崎 方哉

けやき大通りの改良

問 三木町交差点は、県内有数の交通事故多発地点である。大通り歩道拡幅等の改良について、県道ではあるが、県市共創で再整備実現に取り組んでどうか。

答 道路構成の再配置や安全で楽しく移動できる道路について、県と共に考え、けやき大通りの有効活用や魅力向上、新たな都市空間の創出に向け取り組んでいく。

和歌山南スマートインターチェンジ周辺

問 南インター周辺は、その用途が限定されており、商業は認められていない。しかしながら、観光要素があり、他市から顧客の流入が期待できるものは認めるなど、厳格に商業不可とするのではなく、間口を広げ、許可できる用途を拡大するべきだと考えるがどうか。また、開発許可基準を条例で定めてはどうか。

答 今後、南インター周辺などの有効活用が進むよう地域特性や周辺状況を踏まえ、許可できる用途や開発基準の条例化についても検討していく。

政和クラブ



きたの ひとし
北野 均

今日の世情と和歌山市政

問 今の世情から得るものをそしゃくし理解したことを表出することは大切である。市長は、今日の世情をどう受け止め、何を市政に反映させようと考えているか。

答 若者世代の活力に加え、市民の活動が高まってきている。あらゆる世代とオール和歌山市の力で、「きらり輝く元气和歌山市」の実現に向け取り組んでいく。

道路問題

問 南港山東線、松島本渡線、和歌山南スマートインターチェンジ、和歌山マリナーシティを有機的に連絡させる道路構想、とりわけ南部地域の東西路線の必要性を市長はどう考えるか。

答 南部地域の東西路線は、有機的な交通機能の充実が必要だと考える。

ピックアップ PickUp! 一般質問

一般質問の概要では、多数ある質問項目の中から、特に市民の皆様へお届けする内容をピックアップした上で掲載しています。



録画中継がご覧いただけます。

※各会派のスペースは、会派の所属議員数によりその大きさが異なります。

自由民主党市議団



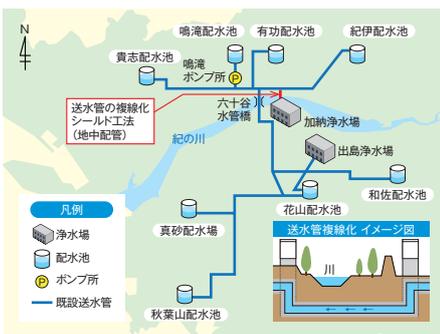
はまだ しんすけ 浜田 真輔

水道行政

問 六十谷水管橋の崩落を受け、送水管の複線化・新浄水場建設（案）について、パブリックコメントが実施された。今後、安定供給を目指して、安心できる上水道運営を進める必要がある。

復旧した六十谷水管橋が、大きな地震に対して未知数だと心配する市民も多

いが、そのことを含め、送水管の複線化について、市長の考えはどうか。



答 紀の川北部地域への水道の安定供給は、早急に整備する必要があることから、まずは送水管の複線化の実施に向け進めていたところ、「リダンダンシー」に関する新たな補助制度」が創設された。この制度を活用し、令和5年度から事業採択を受け、複線化事業に着手できるよう、厚生労働大臣に要望を行った。

また、六十谷水管橋についても、水管橋全体の耐震性能を確認するため、令和5年度から耐震診断を予定しており、早期のリダンダンシー確保に努めていく。

問 北部新浄水場の建設は、

令和10年度から約11年を見込んでおり、費用、用地面積ともに大規模な事業となる。慎重に事業を進めるべきだと考えるが、5年先となれば、候補地である用地が開発などにより、環境が変わるかもしれない。また、浸水地域との調整なども事前に考えなければならぬ。令和10年度からの事業開始ではなく、用地選定の検討だけは一足先に進めるべきだと考えるが、市長の考えはどうか。



六十谷水管橋

答 北部新浄水場の建設には、多額の費用と期間が必要になることから、事業費の抑制と工期短縮についても研究するよう指示しており、現在、工業用水道の活用も含め、幅広く検討して

いるところである。今後、検討を加速させるとともに、市民負担の軽減に向けた更なる事業費の抑制に努め、財源確保など国に対する支援要請についても引き続き取り組んでいく。

空き家対策

問 管理が行き届き、きれいに維持されている空き家がある一方、雑草や樹木が生い茂り、破損を放置したままの空き家が数多くあるように感じている。瓦や屋根材が、台風や強風で落下して危険を感じるなど、管理が不十分な空き家に隣接する方にとって、これは深刻な問題である。

空き家問題は、全く解決しないことや一時的に解決してもまた繰り返し問題になるなど、解決の方向には向かっていない。現行の制度下にある取組では、今後もし空き家が増加する傾向にあると考えている。

空き家対策は、一歩踏み込んで、あらゆる手段を講じ、新たな取組を始めるべきだと考えるが、市長の考えはどうか。



答 空き家の発生の抑制、流通や活用の促進、適切に管理されていない空き家の解消、特定空き家等に対する措置を状況に応じて実施し、令和5年度には移住者空き家改修等補助事業を予定するなど、新たな事業を実施しながら空き家対策の強化に取り組んでいる。

また、国では特定空き家に至らないまでも、管理が不十分な空き家に対し、新たに管理不全空き家等に指定し、所有者等の管理責任を求めるところなどを盛り込んだ「空き家対策の推進に関する特別措置法の一部を改正する法律案」が閣議決定された。今後、法改正成立後、速やかに更なる空き家対策を積極的に進めていく。



ほり よしこ
堀 良子

デジタル人材の育成

問 コロナ禍によって、オンライン会議やリモートワークが日常的になりつつあり、誰もがスマートフォンからデジタルの恩恵を受けられる環境が整ってきている。自治体はデジタルの持つ可能性等について、知恵や気付きを出し合うために、様々な立場の人が議論の場に臨むよう促すことが必要である。多くの人を巻き込むことで、デジタル人材の育成と確保、さらには輩出が流れとして出来上がっていくものと考ええる。

答 デジタル人材の育成と確保に加え、地域発展に資する人材を輩出させることは、重要な課題と捉え、着実に進めていく。

また、和歌山市スマートフォン活用推進プラットフォームを構築し、分科会の立ち上げを検討していく。



若者会議

問 和歌山市の活力を発展させるために重要なのは、生まれ育った若者が住み続けたいと思えるまちなぎにすることであると考え。行政は、若者の描く将来像を的確に捉え、限られた資源で、十分に政策に取り入れることが大切である。全国の自治体でも、同様に考える首長等が、若者から政策提言

などを直接聞く機会を設けている。こうした取組は、若者のアイデアをストレートに受けることができ、若者への支援に関する施策に生かせるものと考え。そこで、和歌山市の確たる将来像を描くために有効な「若者会議」を開催すべきと考えるがどうか。

答 現在、本市で行っている事業では、高校生以上の若者が対象となっていないため、小中学生以外の若者の率直な意見を聞き、意見交換できるよう、今後、研究を進め、本市での実施を検討していく。

婚活キャンプ

問 コロナ禍において、出会いの機会が少なくなっていることは否めない。出会いの機会が得られなかった方には、その機会を得やすいような環境を整えることが有効である。

本市においても、「お見合い応援プロジェクト」があるが、これはお見合いという伝統的な形態であるため、違った角度からのプロジェクトも必要であると考

える。ここで、他都市の事例を見ると、「婚活キャンプ」というものがある。これは、デイキャンプの作業をチームで取り組みながらする婚活イベントで、出会いの機会を自然な形で作る事ができるものだと考えられる。また、このイベントは、ロケーションの素晴らしさが外せない。もし、本市で開催すれば、若者のライフステージの第一歩となる上に、市の魅力と強みを存分に使った婚活イベントになるのではないか。

そこで、「婚活キャンプ」を市の施設などを活用して実施してはどうか。



答 市の施設などを活用した「婚活キャンプ」を含む様々なイベントについて、

実施に向けた検討を進めていく。

日本共産党議員団



さかくち たみこ
坂口 多美子

国民健康保険

問 高すぎる保険料負担が低所得者の医療保障に重大な影響を及ぼしている。一般財源を活用して、国保法第44条の適用条件緩和など、制度の改善を行うと同時に、国庫負担の大幅引き上げを国へ求めるべきだと思いが市長の考えはどうか。

答 一般財源繰入の増額は困難だが、財政支援拡大等について、市長会等を通じて国へ要望している。



なかむら あさと
中村 朝人

子育て支援／まちづくり

問 子育て支援は、どの家

庭にも共通の制度にすべきと考える。保育料の負担軽減制度の対象外世帯への拡充について、どう考えるか。

答 支援施策検討を進める。

問 都市開発により健康上のリスクを抱えながら引越す状況がある。民間住宅の活用も含めた公営住宅の整備をどうするか。

答 住み慣れた地域で安全と安心を感じられる心豊かな暮らしの実現を進める。



みなみばた ざちよ
南畑 幸代

買物弱者支援

問 市北東部で大型店等の閉店による買物弱者が増える可能性がある。市が移動スーパ―等に取り組む業者と買物困難者の橋渡しをする必要があるのではないか。

答 15の日常生活圏域に生活支援コーディネーターを配置し、自治会や老人クラブ等地域の多様な主体が入った協議体を設置している。支援が必要な場合は関係部局と連携協力していく。



いもと ゆういち
井本 有一

駅のトイレ・屋根問題

問 JR西日本による駅のトイレ、ホーム屋根の撤去が進められている。地域住民から設置の要望があり、また、衆議院予算委員会でも取り上げられた。市長はこの問題にどう向き合つか。

答 駅構内への設置については本来、鉄道事業者が実施するものであり、今後、JR西日本に要望していく。



ひめだ たかひろ
姫田 高宏

マイナ保険証

問 市報わかやま11月号の市長コラムでマイナンバーカードの普及を呼び掛ける記事に関して、健康保険証との一体化について医療機関の懸念に寄り添う気配が全くないのはなぜか。

答 様々な疑問や医療現場

で生じる懸念に対し、その不安を解消した上で、進めていくことが重要であると考えている。

民主クラブ



そうがわ あつし
寒川 篤

奈良県川上村との連携

問 本市と奈良県川上村は「吉野川・紀の川水源地保護に関する協定」を結んでおり、森林環境の保全事業を中心として様々な取組を行っている。

水源地である川上村との交流は、森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟が平成10年3月に設立されたことから始まり、今日に至るまで約25年間続いている。近年では、毎年、市内の小



小学校での出前講座の様子

学校へ川上村から講師を招いて、出前講座を開催しており、子供たちに水源地保護の大切さを学んでもらっている。

豊かな未来づくりに不可欠なのは、それを担う子供たちの心を豊かに育むことである。ふるさと和歌山市に注ぐ命の水の源である川上村では、源流の使命と責任の心を持った人を育み、本市では、命を支える水に感謝し行動できる人が育っていかねばならない。

和歌山興志クラブ・日本維新の会



あかまつ よしひろ
赤松 良寛

市職員の人事評価制度

問 小学4、5年生の授業の中で、紀の川の水及び水源地のことを教材とする学習について、現在の取組はどうか。また、毎年、一定数ずつ学校を指定し、何年かかけて市内全ての小学4年生が川上村を訪れることを支援できないか。

答 本市の小学校では、4年生の社会科の学習において、副読本を活用し、紀の川とその水源地などについて学習している。川上村での現地学習や出前授業を経験した児童は、その学習が貴重な体験となり、学習がより深まったと学校から報告を受けている。今後、研究指定校を中心に、更に研究を深め、各学校に研究成果を広めたいと考える。

問 前例主義、評価一律の評価制度、年功序列制度等により問題意識が欠如している。やる気の減退を防ぐためにも、市職員の人事評価制度の見直しが必要と思われるがどうか。

答 評価を通じ、昇級、昇任、人事配置などで明確なインセンティブとして活用し、全ての職員が自己成長とやりがいを感じながら職務を遂行できるよう努める。



はやし ゆみ
林 佑美

がん対策

問 胃がんの感染予防に、中学校健診でピロリ菌検査を導入してはどうか。次に、患者の苦痛軽減や日常生活をサポートする医療用ウィッグ等の購入費助成等が必要と考えるがどうか。

答 検査導入について、国、県などの動向等を注視し調査研究していく。また、助成について、県が予定するアピアランスケア支援事業を活用し実施検討していく。



なかしょうや こうじろう
中庄谷 孝次郎

学校給食の無償化

問 学校給食について、行政がその責務において必ず無償化するべきであると考え。市長は、どこまでの支援を行政としてするべきと考えるか。

答 中学校給食費の無償化については、中学校全員給食の開始と同時に実施する。小学校給食費については、今後県と連携しながら財源確保の上、無償化を早期に実現したいと考える。



やまの まいこ
山野 麻衣子

今後の公共施設の運営

問 市民図書館、和歌山城ホールは今後30年間にわたって市民ニーズに応え、魅力的な施設としてあり続けられるのか。

答 これらは、次世代に引

き継ぐべき施設として整備してきた。今後も社会状況の変化や進化などに対応しながら、施設単体ではなく、まちなかを一体的に捉え、更なるにぎわいの拠点となるよう取り組んでいく。

政和クラブ



さへき しげあき
佐伯 誠章

水素社会実現に向けた取組

問 本市においても、水素ステーションが開設されるなど、水素社会の実現に向けた取組が進んでいる。また、水素エンジンが自動車に限らず、航空機や船舶等での実用化に向けて進むなど、次世代エネルギーとしての水素社会の到来はそこまで来ている。

しかしながら、水素はまだ一般的なエネルギーとは言えず、その安定確保と次世代エネルギーとしての理解度、認識度を高めていかなければならない。環境

先進都市といわれる自治体においても、水素社会なるものを地域住民に知ってもらうため、水素エネルギーを積極的に活用した社会の実現に力を入れている。

水素社会実現に向けた取組について、市長の考えはどうか。

答 引き続き、水素エネルギーの活用に向けた取組の調査・研究を行うとともに、水素社会の実現に向け市内事業者が国の支援策を活用して前向きな技術開発が進められるよう、しっかりと後押ししていく。



公用車として燃料電池自動車の導入

問 水素社会推進への理解や普及啓発に弾みをつける意

声の市議会だより
(市議会だよりの音声版)

市議会の活動をより一層知っていただくために、声の市議会だより(市議会だよりの音声版)を作成しています。

ご希望の方は、議会事務局 秘書広報課
☎435-1120 までご連絡ください。

答 FCVについては、汎用性に課題が残っていると認識している。今後、課題解消につながる技術の進歩があれば、導入に向けて検討を進めたいと考える。



委員会審査の概要

総務委員会

当委員会に付託された承認案件1件及び議案8件について、慎重審査の結果、承認及び可決すべきものと議決されました。なお、令和5年度の主要事業については、次のとおりです。

トライアル和歌山市利用促進事業120万円について。これは、本市で居住や就業、学校生活などを体験した方やワークショップを行った企業に、活動に係る経費の一部を支援することで、本市での生活を体験しようとする方を増やし、移住促進を図るものです。

事前復興計画の策定52万8千円について。これは、被災後のまちの復旧・復興の早期実現を目指すため、①「住環境の確保」②「産業の復興」③「市街地の復興」について、復興まちづくりの基本的な方針とそれを達成するための手法などを整理した事前復興計画を策定するものです。

行政手続のオンライン化推進492万6千円について。これは、和歌山市デジタル化推進計画の取組として、オンライン申請時の本人認証機能や、手数料のキャッシュレス決済機能を拡充することで、行政手続のオンライン化を推進するものです。また、スマートフォンで

オンライン申請の申請履歴や申請状況を確認できるデジタル窓口を導入するものです。

本会議場へのモニター設置61万5千円について。これは、市民に最も身近な和歌山市議会を基本理念とした「和歌山市議会をDX／わかやまスマート市議会構想」の実現に向けた第1フェーズの取組として、本会議場にモニターを設置し、会議の進行状況や配付資料等の映像を配信することで、市民との分かりやすい情報共有を図るとともに、ペーパーレス化を推進するものです。



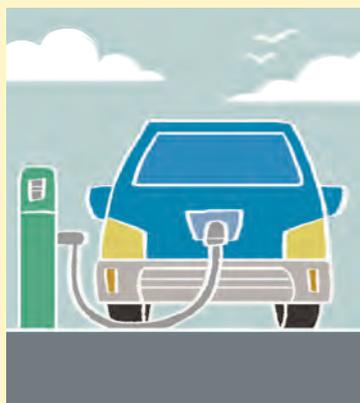
本会議場へのモニター設置イメージ

なお、審査過程において、令和5年度組織改正案などについて、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。

厚生委員会

当委員会に付託された議案20件について、慎重審査の結果、可決すべきものと、また、請願1件については継続審査となり、閉会中もなお、慎重審査を要することと議決されました。なお、令和5年度の主要事業については、次のとおりです。

EV自動車の導入促進900万円について。これは、脱炭素に向けた取組の一環として、市民を対象に、再エネ供給などを条件にEV自動車を購入した費用に対し、補助金を交付するものです。



18歳まで子ども医療費無償化を拡大1億2046万6千円について。これは、令和5年8月から子ども医療費助成に係る年齢制限を拡充し、和歌山市に住所を有する18歳年度末までの全ての子供が医療費助成を受けられるようにす

ることで、安心して子供を産み育てられる環境の充実を図るものです。

保育体制強化事業費補助2863万9千円について。これは、清掃業務や遊具の消毒、給食の配膳、寝具の用意、園外活動の見守り等といった保育に係る周辺業務を行う者の配置の支援を行うことで、保育士の負担を軽減し離職防止を図るとともに、児童の園外活動時の安全を確保するものです。

子宮頸がん予防ワクチンに係る任意接種者への支援1424万1千円について。これは、HPVワクチンの積極的勧奨差し控えにより、接種機会を逃し、自費で任意接種を受けた方に対し、接種費用を事後的に償還するものです。

高齢者補聴器購入費の助成150万円について。これは、聴力低下により日常生活の営みに支障がある在宅の高齢者に対し、補聴器購入に要した費用を助成(上限2万円)し、高齢者の閉じこもり防止と外出支援を図るものです。

なお、審査過程において、健康局の組織改正について、新型コロナウイルス感染症とワクチン接種について、太陽光発電事業の進捗について、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。



委員会の模様をインターネットで配信しています！

市議会ホームページから録画中継がご覧いただけます。

経済文教委員会

当委員会に付託された議案17件について、慎重審査の結果、可決すべきものと議決されました。なお、令和5年度の主要事業については、次のとおりです。

けやき大通りイルミネーションプロジェクト1500万円について。これは、本市の玄関口であるJR和歌山駅から和歌山城までをイルミネーションで彩り、夜間の滞留時間を延伸させ、光でまちと人をつなげることにより、夜間消費については市内消費の拡大を目指すものです。

第21回和歌山ジャズマラソンの開催2348万円について。これは、第21回目を迎える和歌山ジャズマラソンについて、令和5年度はゲストランナーを迎え、参加賞を充実させるなど、リピーター参加者だけでなく新規参加者も呼び込むことにより、大会を盛り上げるとともにスポーツツーリズムの一端として観光誘客にもつなげるものです。

「サマータイムレンダ」ゆかりの地イベントの開催399万3千円について。これは、友ヶ島をモデルとした「日都ヶ島」が舞台のアニメ「サマータイムレンダ」の声優を起用したイベントを本市で開催し、

ファンを中心とした観光誘客を図り、本市の魅力発信と観光消費の増加につなげるものです。

有吉佐和子文学賞の創設154万1千円について。これは、有吉佐和子氏の顕彰に加え、文学について学ぶ機会を提供すること及び本市の文化的風土を醸成することを目的として有吉佐和子文学賞を創設し、作品を募集するものです。



有吉佐和子記念館

中学校全員給食化の推進2332万8千円について。これは、(仮称)和歌山市中学校給食センターについて、DBO手法により整備・運営するに当たり、事業者との契約締結までに至る一連の業務について、業務実施上必要となる調査・検討並びに資料作成等の業務を委託するものです。

なお、審査過程において、給食センターの中央卸売市場南用地の利用、和歌山市民図書館の管理運営などについて、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。

建設企業委員会

当委員会に付託された議案34件について、慎重審査の結果、可決すべきものと議決されました。なお、令和5年度の主要事業については、次のとおりです。

都市計画道路検討業務1450万円について。これは、市民の安全・快適な生活を守るための都市計画道路の整備を効率的かつ効果的に継続して進めていくため、未整備区間において、幅員変更などの検討を進めていくものです。

紀の川緑地のリニューアル2330万円について。これは、施設の老朽化が進む紀の川緑地について、広場のリニューアルや新たなアクティビティエリア等の検討など、紀の川緑地全体を憩いやにぎわいのある空間として、総合的に整備していくものです。

生活道路等災害防止対策事業3億1504万円について。これは、安全で快適な道路環境を確保するため、市民の暮らしにより身近な生活道路の舗装修繕等を計画的かつ集中的に行っていくものです。

送水管複線化事業1210万円について。これは、紀の川以北地域の安定供給に向けて紀の川横断部の複線化に取り組むため、紀の川河床横断送水管の詳細設計を

令和5年度から令和6年度で行うものです。

雑賀崎廃旅館の除却事業6971万8千円について。これは、所有者不確知となった土砂災害警戒区域内の斜面に立地する廃旅館が、老朽化の影響で倒壊の危険があるため、周辺の市民の安全を守るために、略式代執行による解体工事を行うものです。



雑賀崎廃旅館

消防団員年額報酬の引上げ6232万6千円について。これは、大規模災害をはじめ地域住民の生命・財産を守るために必要不可欠な消防団について、処遇改善を図るため、年額報酬の大幅な引き上げを行うものです。

なお、審査過程において、行政代執行(略式代執行)の判断基準、開発許可基準の改定などについて、執行部からそれぞれ報告があり、これらに対し、各委員から意見、指摘及び要望がありました。

永年在職 議員表彰

和歌山市議会2月定例会において、永年在職議員として、次の議員が表彰されました。



ふるかわ まさのり
古川 祐典 議員



みなみはた さちよ
南畑 幸代 議員



おざき まさや
尾崎 方哉 議員



在職20年

市議会の傍聴手続が簡単になりました!

- 受付にて貸与された傍聴券を着用するだけで傍聴できます。
- 住所、氏名の記入は不要です。
- 撮影、録音の許可も不要です。

ぜひお気軽にお越しください!



M!LKの塩崎太智さんが市議会にお越しになりました



次の定例会は、
6月です!

スマートフォンなどでインターネット中継(生中継・録画中継)がご覧いただけます。ご利用ください。



Z世代におすすめ!



いつでもどこでも
市議会だよりが
ご覧いただけます!



その他、行政情報もチェックできます。



広報委員会からのお知らせ

市議会PR動画が 完成しました!

#ええやん和歌山市議会
#お察してください



和歌山市議会
チャンネル
YouTube



和歌山市議会広報委員会

- 【委員長】中村 元彦 【副委員長】堀 良子
 【委員】中村 朝人 中庄谷 孝次郎 山中 敏生
 川端 康史 山本 大地 坂口 多美子
 園内 浩樹 佐伯 誠章

〒640-8511
和歌山市七番丁23番地
和歌山市議会広報委員会 宛
TEL: 432-0022(議会事務局)
FAX: 424-9276
Mail: gikaidayori@city.wakayama.lg.jp



和歌山市議会ホームページ
<http://www.city.wakayama.wakayama.jp/gikai/>

地球環境保護のために、
植物油インキを使用しています。

